

志公会政策提言  
安倍総理への申し入れ概要

日時:平成 30 年 8 月 27 日 午前 7 時 45 分～午前 8 時

場所:首相官邸 4 階会議室

志公会出席者:甘利明・政策検討委員長、棚橋泰文・事務総長、松本純・事務局長  
鈴木馨祐・政策検討委員会事務局

政策集団志公会としての政策提言につき、安倍総理大臣に申し入れを行ったところ、甘利明・政策検討委員長と安倍総理とのやり取りの概要は以下のとおり。

甘利明・政策検討委員長より安倍総理大臣に、政策提言の手交を行い、次のように発言。



「我々志公会として政策提言の取りまとめを行ったので、安倍総理が総裁選への立候補表明を行った直後のこのタイミングで申し入れに伺った。我々としては、安倍政権のこれまでの政権運営を高く評価している。そして、この変化の早い時代にあって、変化に強い個人、企業を生み出せる政策をさらに進め、この環境に適した体制を作っていくことができるのが重要であり、そのためには、世界におけるデータとルールの競争に勝てるように、さらにはイノベーションに重点を置いて、政策をさらに加速していく必要があると考えている。総理に我々の考えをご理解いただければ、我々志公会としても、その結果を踏まえて直ちに政策集団としての議員総会を行い、来る総裁選挙において、安倍総理に引き続き政権を担っていただけるよう、安倍総理支持の決定を行いたいと考えている。」



これに対し総理より、「目を通させていただいた。そもそも、安倍政権の政策は麻生副総理、甘利大臣はじめ麻生派の方々と作ってきたものであり、麻生派の方々と作ってきた政権だ。時代認識として変化が激しい時代、まさにゲームチェンジの時代だと考えている。その中で皆さんが指摘されたように、どのように世界のルール作りにおいて受け身ではなく主体的に関わっていけるか、先取りしていけるのか、が重要ということは全く同じ思いだ。そしてこの方向性は外交についても同様だと考えている。全体としてアベノミクスをさらにエッジを立てて進めていけという趣旨だと思うが、さらにイノベーションを加速するという方向に進んでいけるかが極めて重要だと考えており、しっかり進めていきたい。これからはしっかりと麻生派の皆さんと共に日本をこうした方向に進めていきたい」との趣旨の発言をいただいた。